

第3回総社市高梁川新架橋整備方針審議会 概要

日 時:平成20年6月25日(水) 13:30~14:50

場 所:総社市総合福祉センター 3階 大会議室

出席者:委員17名,事務局(竹田副市長,荒木政策監,高谷産業建設部長外7名),
部長等市の幹部職員10名

「温暖化対策及び経済効果」「財政状況」について前回の補足説明後審議を行う。

主な意見等

- ・国全体の人口減少,高齢社会は進む一方で活力が失われる。ハードな事業に取り組んだ結果が子孫達の将来をどう左右するのかということも考えるべき。
- ・国の財政が困難になれば補助金等の削減もありうる。市は行財政改革を強力に推進してほしい。市財政の実質公債比率が20%を超えたらまずいというくらいの危機感が必要だ。
- ・道路や橋を大切に使うという意味でのメンテナンスが大切になる。耐震化を重要視すべきである。
- ・高梁川西地区の人は交通渋滞に大変困っている。早朝から出勤せざるを得ない状態で,事故や火災がいつ起こるかわからないが,渋滞時に発生した場合を非常に不安に感じている。
- ・道路や新架橋ができ川西地区に企業誘致が進めば,住人が増え子供達が増加して,新しい文化も芽生え活性化が進む。
- ・市全体として将来の発展に企業誘致が必要と言いながら,川西地区では西工業団地以外に企業誘致する場所があるのか。そこへ行くアクセスがないと誘致はできない。西工業団地及びその周辺を生産流通の拠点と位置づけ,企業誘致を進めてほしい。
- ・今後経済効果が活かされるように,法改正で市街化調整区域でも企業誘致はできるということ,新架橋の償還が始まっても実質公債費比率も悪くはならないということで,市そして川西地区の発展のためにもう結論を出してもいいのではないか。

会長のまとめ

この新架橋は総社市全体からみて,川西地区と川東地区が均衡のとれた発展をするために有効な手段である。市の将来に対して,高齢社会,人口減少や環境問題等に対して対策の必要性も指摘されたが,総社市が一体となって明るい未来が持てるような施策が必要である。川西地区の発展にとって企業誘致があげられたが,川西地区は有数の農業地区でもある。新架橋は市の均衡ある発展のための都市基盤の整備であり,これからの都市資源(ストック)ともなるものである。

皆さんの意見をふまえ,会長の私と清水副会長でこの新架橋整備方針について事務局と協議して素案を作成し,次回に諮らせてほしい。

結論

会長の提案が承諾され,次回に「素案」が提出されることになった。